

〔図説〕 松本歯学 32 : 252~253, 2006

key words : 3DX[®]— 歯内歯 — 画像診断

歯科用小照射野 X 線 CT (3DX[®]) 画像診断： 歯内歯の 1 例

内田 啓一, 黒岩 博子, 杉野 紀幸, 塩島 勝

松本歯科大学 歯科放射線学講座

Diagonostic imaging by limited cone beam CT (3DX[®])
A case of dens invaginatus

KEIICHI UCHIDA, HIROKO KUROIWA, NORIYUKI SUGINO and MASARU SHIOJIMA

Department of Oral Radiology, School of Dentistry, Matsumoto Dental University

歯の形態異常にはさまざまなものがあるが、そのなかでもとくに歯内歯の出現頻度は低いとされている。歯内歯の形態を放射線学的に観察する場合、口内法エックス線写真では充分に行うことができなかった。今回、上顎左側側切歯にみられた歯内歯の 1 例について歯科用小照射野エックス線 CT (榊モリタ製作所, 京都, 以下 3DX[®]とする) において、その形態を観察したので画像を供覧す

る。

患者は10歳8か月の女兒であり、上顎正中部過剰歯の精査のため2004年8月6日に口内法、パノラマエックス線撮影と3DX[®]検査を行った。初診時のエックス線写真(写真1a, b)において、上顎右側側切歯根尖部に2本の過剰歯と上顎左側中切歯近心側に1本の過剰歯を認めた。上顎左側側切歯に円錐状の不透過像(矢印)を認めた。3

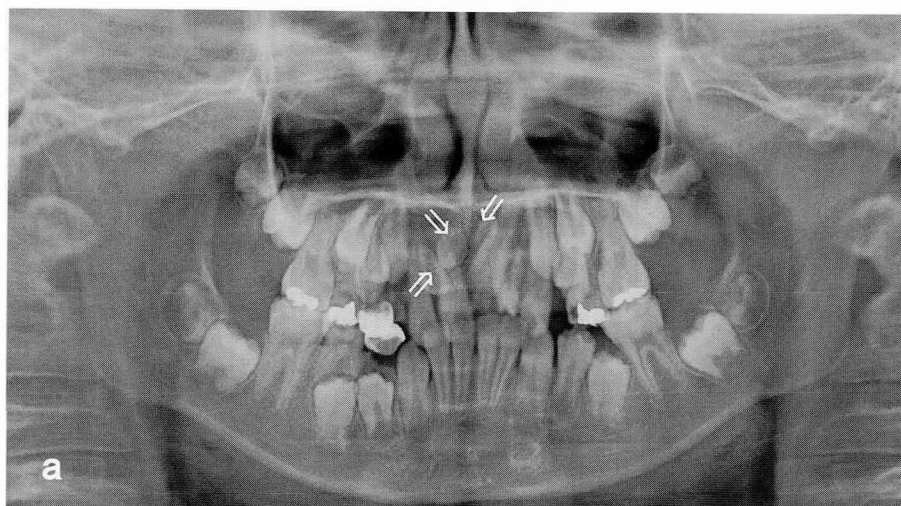


写真1

a : パノラマエックス線写真において上顎右側側切歯根尖部および上顎左側中切歯近心側に 3 本の過剰歯 (矢印) を認める。
b : 口内法写真では上顎左側側切歯に円錐状の不透過像 (矢印) を認める。

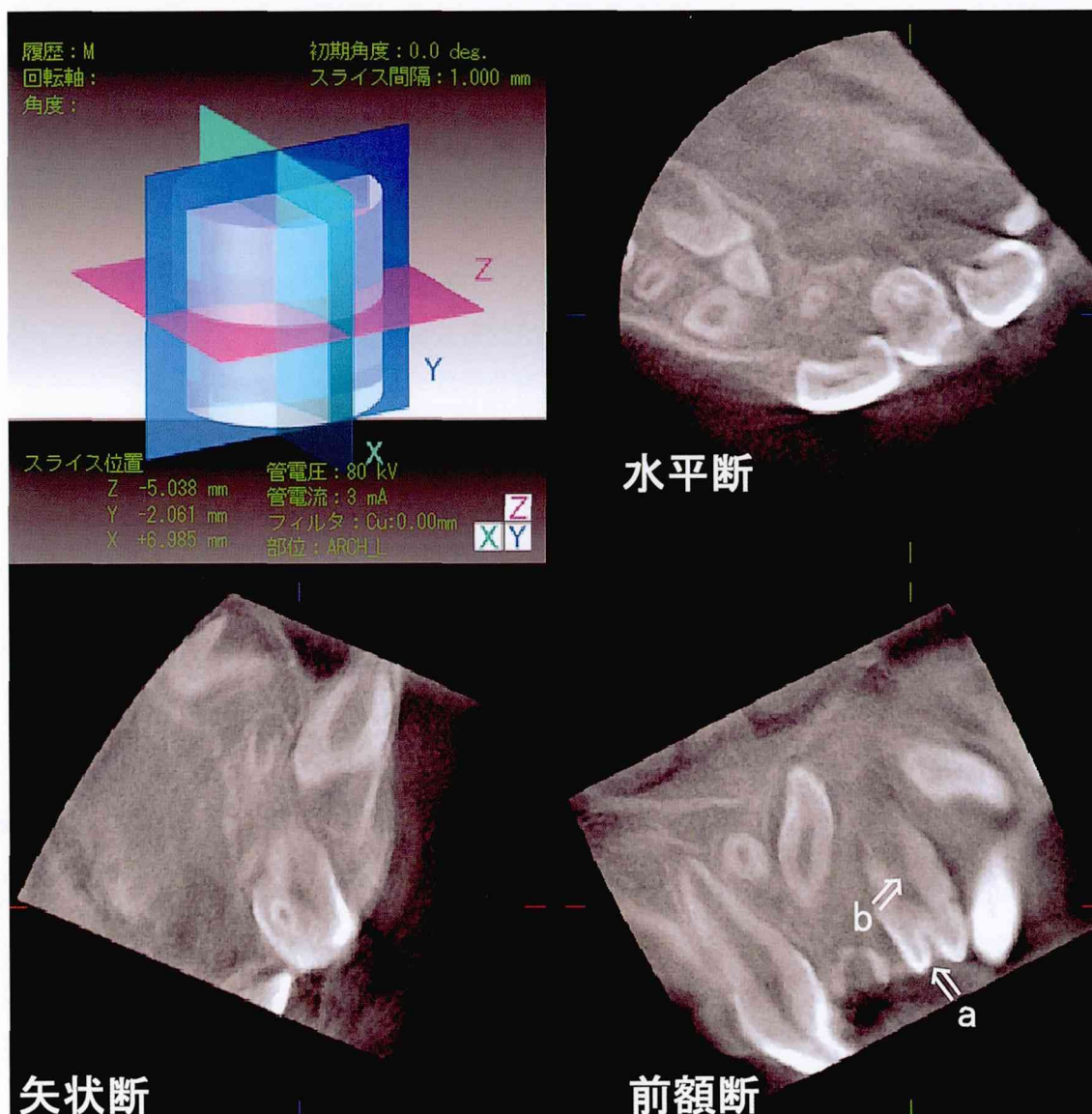


写真 2 : 3DX®画像では上顎左側側切歯においてエナメル質の陥入(a)と歯髓腔(b)と近接する部位を認める。

DX®画像(写真2)において上顎左側側切歯は根末完成性歯であり、エナメル陥入の程度は歯冠内部に留まっているが、歯髓腔と近接する部位も認められた。

歯内歯は歯冠の一部の硬組織が歯髓腔の内部に陥入して発生する¹⁾。その発生頻度についてはこれまでに多くの報告があり、上顎側切歯に圧倒的に多くみられる^{2,3)}。肉眼的な特徴では歯冠形態にあまり異常がないものから、前歯部に発生した場合は樽状の歯冠を認めるものや、歯根部に及ぶ陥入では歯根外形の拡大を呈するものを認めるとされている¹⁾。

歯内歯は陥入部に齶蝕を生じやすく、歯髓炎や根尖性歯周炎に移行しやすいのでエックス線画像

検査による経過観察が必要であるとされていたが、口内法エックス線写真では陥入部の状態を明瞭に観察することが比較的困難であった。しかしながら、3DX®により複雑な陥入部の状態を把握することにより、的確な治療計画を検討することが出来ると思われた。

文 献

- 1) 石川梧郎監 (1989) 口腔病理学 I, 第 1 版, 19-22, 永末書店, 東京.
- 2) 亀本博雅 (2000) エナメル陥入歯の臨床出現頻度と画像診断. 岐歯学誌 27: 12-27.
- 3) 今村英夫, 内田啓一, 亀本博雅 (2004) 上顎両側側切歯にみられた歯内歯の 1 例. 歯科放射線 44: 236-7.